

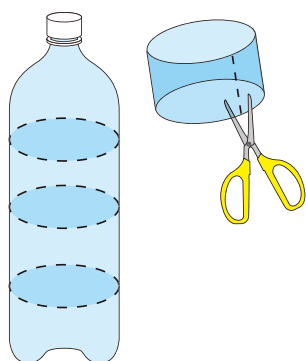
ペットボトルでダンゴムシ防除！

トマトやナス、キュウリなどの苗を植え、うねの上に敷き草をすることは、土の水分を保ち、地温を安定させ、根の活着を促します。この敷き草と土の間には、ミミズやヤスデ、ダンゴムシ等たくさん

の虫たちが生活していて、コロコロとした軟らかい土を形成しています。敷き草は「育土」の技術の一つです。ダンゴムシは敷き草や選定くず、収穫残渣を細かく分解して土に返す大変重要な役割をしますが、ときには作物の根元をかじったりして、ひどいときには枯らしてしまうようなイタズラをすることがあります。そんな場合はペットボトルを活用すれば、ダンゴムシのいたずらをシャットアウトできますよ。

- ①ペットボトル（E Mの空きボトルがちょうど良い）を5～10cmの幅で輪切りにします。
- ②はさみで縦に切り、左右に開くようにします。
- ③定植した苗を挟み込こみ、壁を作り、動かないように1cmほど土に埋め込み、完成です。
- ④ダンゴムシはペットボトルの表面を垂直に登ることができないので、苗の根元に近づくことができず、いたずらを完璧に防ぐことができます。

※縦に切り込みを入れているので、苗が大きくなった後には取り外せ、水がたまることもありません。またネキリムシ対策にも有効です。



1～1.5 Lの円筒形のペットボトルがベスト



←ダンゴムシにかじられたキュウリ

コツ・アイディア・ワザ大募集！

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、病害虫対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイディアを募集しています。簡単な内容に写真を添えて下記までお送り下さい。採用された方には粗品を進呈します。

470-2211 愛知県知多郡阿久比町草木峯畑 75
公益財団法人自然農法国際研究開発センター 普及部 技術普及課
メールの場合は kanie@infr.or.jp まで



いつでも水分・養分補給が自由自在

夏野菜、特にキュウリ、ナス、トマトなどの果菜類は収穫がはじまる頃になると水分と養分の吸収量が大きくなります。また、夏は乾燥が続くと土が乾きやすくなり、表土が水をはじくようになり、少量の雨では水が土に十分に浸透しないことがあります。そんな時、この方法ならすばやく手軽に水分や養分を補給することができます。



みずの くにお
水野 邦夫さん
(岐阜県瑞浪市)
自然農法暦 8年
栽培面積 20 a

- ①筒作り。加工のしやすい筒状の雨樋あまどいを使います。30cmの長さに切り、端から縦に10cmの切り込みを4本入れます。(切り込みから水が横に染み出る)
- ②畝立てもしくは、苗を定植する時に株間に穴を掘り、筒を切り込みが下になるようにして20cmの深さまで埋めます。
- ③液肥は、容器にE MボカシⅡ型を一握り入れ、水を入れて養分を浸出させます。約3時間くらい浸けておけば養分は水に抽出されます。(編み目の細かい布などに包んで浸出すれば、液体と固体の分別が簡単になります)
- ④E Mボカシを濾しながら抽出した液を筒に流し込みます。
- ⑤残ったE Mボカシは、株の周りに撒き、土と軽く混ぜます。

この筒を通じて下層に水を浸透させることができるという利点があります。また、有用微生物を活用することで病原菌を抑制することも可能だと思います。

この方法は、プランター栽培にも活用できます。マンションのベランダで栽培している方で、ボカシ肥など近隣への臭いが気になる場合は、この筒に蓋を付けるとにおいの蒸散を軽減することができますよ。



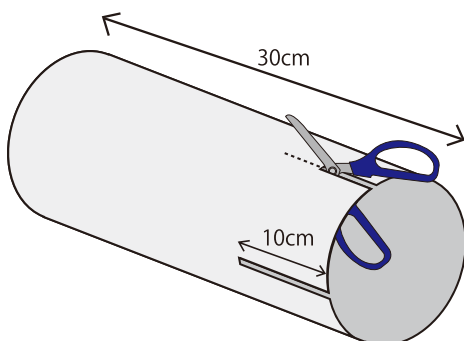
筒は株と株の間に設置します(円の中)



プランターにも活用可能



立派なブロッコリーが育ちました！



30cmの筒に10cmの切れ込みを入れます。



ボカシの抽出液を筒の中に流し込みます。根の張っている深さに直接水やりすることができます。



自然のちからと恵みを感じてみませんか？

ベランダや軒先など、日当たりがよくプランター等を置くスペースがあれば、いろいろな野菜の栽培が楽しめます。初めての方はリーフレタス・二十日大根・パセリ・チンゲンサイなどの栽培しやすい野菜から始めることをおすすめします。ここでは、土の準備からタネ播きまでの手順を見ていきましょう。



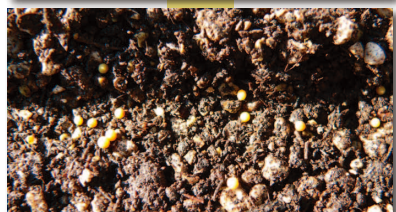
かまぼこの板などの板きれを使って、タネを播く溝をつけます。深さはタネの大きさによって異なりますが、ここでは約5mmにしています。



土をグッと握って、水分がにじみ出るか出ないかくらいがちょうどよい水分量です。(乾いた培養土は水をはじくので、かん水が土に浸透しにくくなります)



プランターは作物に合った種類やサイズを選ぶようにします。購入時に店員さんに尋ねるのもいいでしょう。ここでは、11 Lのプランターを使います。



タネをすじ状に播きます。タネは多めに播き、間引きをしながら栽培します。間引き菜は生食、炒め物、スープ、おひたしなどで食べます。



プランターの底網の上に鹿沼土を厚さ約2cmに敷きます。(水はけをよくするため)



鹿沼土と培養土を用意します。培養土は、化学肥料が配合されていない培養土が市販されています。※次のような培養土がインターネットで購入できます。ポット用有機培土（EM研究所）、有機の土（サカタのタネ）、有機園芸培土（関東農産）など



水分調整した培養土を入れます。最後にプランターをトントンと軽く落として、土をおちつかせます。土の量は、プランターの上端から土までの深さが葉菜類では2cmくらい（深すぎると日陰になる）、その他の野菜では4～5cmくらいになる程度にします。



覆土は、タネの厚みの約3倍が目安です。覆土をしたら板や手のひらで軽く鎮圧して土とタネの密着度を高めます。(タネの水分吸収がよくなり、土の乾燥防止にもなります)



購入した培養土は乾燥していることがあるので、事前に水を加えて水分を調整します。土10リットルに対して水1リットルくらいを加えます。



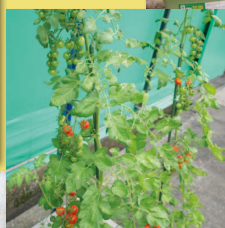
育てて食べよう、プランター野菜

ちょっとひと工夫

鉢はプランターに限りません。ペットボトルや厚手のビニール袋など、工夫しだいでいろいろな資材を鉢として使った栽培が楽しめます。



**まずはタネを播き、苗を植え、楽しく野菜を育ててみましょう
きっと自然のちからと恵みを感じることができますよ**



タネを播いたら、新聞紙を濡らして掛け、土が乾かないようにします（新聞紙が風で飛ばないように注意してください）。地温によりますが、葉菜類なら2～3日で発芽しますので、発芽したら新聞紙をはがします。



寒い時はビニールを掛けると地温が上がって、発芽が促進されます。



プランターは底に当て木をしておくと、排水がよくなり、ナメクジやダンゴムシが棲みつきにくくなります。



大きくなったものから順に間引き収穫します。

自然農法 家庭菜園の手引き ～自然を楽しむ菜園講座～



A 4 版 フルカラー 134 ページ
頒布価格 1,000 円

当センターは、この度「自然を楽しむ菜園講座テキスト」を増補・改訂して、新たに「自然農法 家庭菜園の手引き」の頒布を開始しました。本書は、プランター栽培や菜園をはじめた方にも分かりやすく解説しています。どうぞご活用ください。

詳しくは当センターホームページをご覧ください。
お問い合わせください。

ホームページ：<http://www.infric.or.jp/>

電話：0569-89-7643（普及部 技術普及課）